

経 由

議 長



政務活動費交付請求書

令和 6年 9 月 17 日

四日市市長

会 派 名 政友クラブ

代表者氏名 川村 幸康

四日市市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則第4条第1項の規定に基づき、令和6年10月分政務活動費（概算払）の交付を次のとおり請求します。

1 請 求 額 (9人分) 495,180 円

2. 政務活動費の対象となる経費

区 分	金 額	備 考
調 査 研 究 費	495,180円	
研 修 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
広 報 費		
広 聴 費		
人 件 費		
事 務 費		
合 計	495,180円	

※概算払・前金払がある場合は、備考にその別を記載すること。



経理責任者

萩須

内 訳 明 細

令和6年10月分 No. 8
会派

区 分	金 額	内 容
調 査 研 究 費	495,180円	会派視察 (10/14~15)
研 修 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
広 報 費		
広 聴 費		
人 件 費		
事 務 費		
合 計	495,180円	

※支出に係る領収書その他の証拠書類を添付すること。

第6号様式(第4条関係)

(調査研究、研修、要請・陳情活動、会議) 旅 費 明 細

会 派 名	政友クラブ							
参加者氏名	川村 幸康・笹岡 秀太郎・伊藤 嗣也・荻須 智之・上 麻理・笹井 絹予 日置 記平・森 康哲・森川 慎							
用務先	周南市							
実施日	令和6年10月14日 (月) ~ 令和6年10月15日 (火)							
目 的	視察							
月日	発 着	路 程	路線	運 賃	特別料金	特・急料	日 当	宿 泊 料
10/14	近鉄 四日市 ~ 名古屋	36.9 KM	近鉄	760 円	円	520 円	2 日 (3,000 円/日)	甲地方
	名古屋 ~ 徳山	616.7 KM	JR	17,620 円	円	7,070 円		泊
								(15,900 円/泊)
10/15	徳山 ~ 名古屋	616.7 KM	JR	円	円	6,870 円		乙地方
	名古屋 ~ 近鉄 四日市	36.9 KM	近鉄	760 円	円	520 円		1 泊
	~	KM		円	円	円		(14,900 円/泊)
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
小 計				19,140 × 9 172,260 円	× 0 円	14,980 × 9 134,820 円	6,000 × 9 54,000 円	14,900 × 9 134,100 円
合 計				495,180				

※精算

	運 賃	特別料金	特・急料	日 当	宿 泊 料
精 算 額	円	円	円	円	円
差 引 額					
過 不 足 の 理 由					

経 由

議 長



概算払・前金払精算書

令和6年10月18日

四日市市長

会 派 名 政友クラブ

代表者氏名 川村 幸康



四日市市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則第5条第3項の規定に基づき、
令和6年10月分政務活動費（概算払）について、下記のとおり精算します。

1 精 算 額 443,410円

2 過 不 足 51,770円

※支出に係る領収書その他の証拠書類を添付すること。

経理責任者

荻須



(調査研究、研修、要請・陳情活動、会議) 旅 費 明 細

会 派 名	政友クラブ							
参加者氏名	川村 幸康・笹岡 秀太郎・伊藤 嗣也・荻須 智之・上 麻理・笹井 絹予 日置 記平・森川 慎							
用務先	周南市							
実施日	令和6年10月14日 (月) ~ 令和6年10月15日 (火)							
目 的	視察							
月日	発 着	路 程	路線	運 賃	特別料金	特・急料	日 当	宿 泊 料
10/14	近鉄 四日市 ~ 名古屋	36.9 KM	近鉄	760 円	円	520 円	2 日 (3,000 円/日)	甲地方 泊 (15,900 円/泊) 乙地方 1 泊 (14,900 円/泊)
	名古屋 ~ 徳山	616.7 KM	JR	17,620 円	円	7,070 円		
10/15	徳山 ~ 名古屋	616.7 KM	JR	円	円	6,870 円		
	名古屋 ~ 近鉄 四日市	36.9 KM	近鉄	760 円	円	520 円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
	~	KM		円	円	円		
小 計				19,140 × 8 153,120 円	× 0 円	14,980 × 8 119,840 円	6,000 × 8 48,000 円	14,900 × 8 119,200 円
合 計				440,160				

※精算

	運 賃	特別料金	特・急料	日 当	宿 泊 料
精 算 額	円	円	円	円	円
差 引 額					
過 不 足 の 理 由					

森 康哲 議員 欠席(家族の急病による)に係るキャンセル料の証拠書類

払戻計算書

No.05200698

理由 中止 券番号 31202548 大人 1人/小児 0人
発行年月日 2024年 9月20日 購入商品 乗車券等 Tickets
払戻年月日 2024年10月13日 決済区分 現金

払戻額 ¥880-

(10%対象¥800-

)消費税¥80-

(8%対象¥0-

)消費税¥0-

(内訳) 払戻計算額¥1,280-

手数料 ¥400-

近畿日本鉄道株式会社

(T5120001183629)

24-10-13 15:07:45四日市 52

近鉄四日市 ↔ 近鉄名古屋

(760円 + 520円) × 2

= 2,560

払戻計算書

No.05200697

理由 中止 券番号 31301464 大人 1人/小児 0人
発行年月日 2024年 9月20日 購入商品 乗車券等 Tickets
払戻年月日 2024年10月13日 決済区分 現金

払戻額 ¥880-

(10%対象¥800-

)消費税¥80-

(8%対象¥0-

)消費税¥0-

(内訳) 払戻計算額¥1,280-

手数料 ¥400-

近畿日本鉄道株式会社

(T5120001183629)

24-10-13 15:06:59四日市 52

手数料

400円 × 2 = 800円
— ①

駅-No 発行日時2024年10月13日 09:12
530812 窓口-No 101

払戻計算書

発売額 ¥30,080円
払戻手数料額 ¥2,450円
差引払戻額 ¥27,630円
「消費税等込み・10%」

上記金額を払い戻しました

東海旅客鉄道株式会社
登録番号: T3180001031569
四日市駅

お客様控

クレジットカードご利用票 / CREDIT CARD SALES SLIP

会員番号: VISA

会員番号: VISA

取引内容: 払戻し (JR東海) R129

取引内容: 手数料 (JR東海) R111

支払区分: - 括

支払区分: - 括

4枚(冊)

¥30,080

商品名: (一括発券) 乗車券類

承認番号: 496678

原取扱: 2024-9-19 R104

ATC001A C01

VISACREDIT 80000000031010

2024.10.13 30045-02

この控は大切に保存してください。

四日市駅MR発行

名古屋 ↔ 徳山 3,080円

手数料 2,450円 — ②

① + ② = 3,250円 をキャンセル料として精算する。

視 察 研 修 報 告 書 (1)

視察日時	令和 6 年 10 月 14 日(月) 14:30~16:00
視察者氏名	政友クラブ 川村幸康
視 察 先	山口県周南市 「周南市立徳山駅前図書館」
説 明 者	徳山駅前図書館 ソーシャルデザイン統括本部周南タウンマネジメントリーダー 山中賢治氏
目的	周南市立徳山駅前図書館は四日市市が目指す中心市街地活性化に繋げる新図書館と同じコンセプトで 2018 年に開館された。駅前賑わい交流施設と共に指定管理者による運営がなされておりその成果を確認することとした。
内容	J R 徳山駅に直結しており、指定管理者の C C C (カルチャ・コンビニエンス・クラブ) が一体的に管理を行っており、年中無休となっている。駅前から 800m 離れたところに中央図書館が立地している。図書移管区画の延べ床面積は 2,374 m ² 。
所感・感想	「賑わい創出の図書館導入事例について」 視察に先立つ 2 日前に森康哲議員の母親が脳梗塞にて緊急入院され集中治療室での治療とのことで急遽欠席となり、8 名での視察で挙行することとなった。 新幹線で移動したが、15 分ほどの遅延となり新大阪にて山陽新幹線に乗り換え便への乗車が叶わず、車掌さんの配慮でそのままの列車で次の乗り継ぎ駅まで乗車し当初予定の便にて徳山駅に向かうことが出来た。 徳山駅にてホームから目の前に目的の「周南市立徳山駅前図書館」の外観を見ることができ、駅前賑わい交流施設のネーミング通りの施設であると感じたところであり、駅前にある宿泊ホテルへと荷物を預ける道中にも図書館へと向かう親子づれや高校生達の姿が見ることが出来た。 当施設は周南市徳山駅前賑わい交流施設として 2018 年に開館され、駅前賑わい交流施設と共に指定管理者のカルチャ・コンビニエンス・クラブにより一体的な運営管理が行われており、年中無休で施策展開がされているとの事であった。 特に素晴らしいサービスと感じたのは当施設より 800 m ほど離れた中央図書館の資料がウェブ上で予約でき、当日中に駅前図書館にて受け取りができる当日受け取りサービスが実施されており、有料ではあるものの借りた本の返却には宅配返却サービスが展開されていることから、市民が望むサービスの提供が実施されていると認識した。 また、二階には子ども向けのフロアとしてキッズライブラリーが設置されており、多くの子ども達で賑わっていた。図書館のレイアウトは外周を歩いて移動できるデッキが設けられており、パブリックビューイングも開催されとの事であり、所々に椅子とテーブルが設置されており多くの市民で賑わっていた。 内部からの図書館移動と外部デッキからの移動の動線が合理的な配慮がなされており、一階のカフェコーナーには「スターバックス」が営業されており、賑わいをみせていた。 2 階の販売コーナーにはお茶の新しい飲み方の提案や商品の販売もされており、観光客への配慮もなされている。3 階には自習コーナーがあり多くの学生が黙々と勉強されていた。 3 階の「まちなか共創センター」では翌日の視察先である周南大学サテライトオフィスが年中無休にて開館されており、リカレントやリスキリング委教育などの各種相談を受け付けられており地域との連携窓口としてワンストップでの取り組みが行われており、この目的に沿った利用であれば無料で誰もが利用できる施設であるとのことであった。

視 察 研 修 報 告 書 (2)

視察日時	令和 6 年 10 月 15 日(火) 10:00~12:00
視察者氏名	政友クラブ 川村幸康
視 察 先	山口県周南市 「周南公立大学」
説 明 者	周南公立大学連携課 宮崎正臣氏・同 林正人氏・同 藤井香氏
目的	1971 年創立で「徳山大学」として創立され、2022 年 4 月に公立化されて「周南公立大学」と改称された。学部は 2024 年 4 月に「経済学部」と「新たに福祉情報学部」が生徒募集を停止されており、新たに「人間健康科学部」「情報科学部」「経済経営学部」が設置された推移を現場で確認し四日市市が推進する大学誘致施策の検証を行うこととする。
内容	徳山大学から周南公立大学への移設経緯を伺い、新たな施設への移行以後の投資額と投資効果など大学運営に係る諸課題をについて学んだ。
所感・感想	「周南公立大学の設置経緯と運営について」 視察 2 日目、視察目的である「周南公立大学」までの移動には周南市議会調査担当の鶴岡舞子氏にホテルまでお迎えに来て頂いた。周南市議会事務局 に感謝する。 ホテルより 15 分ほどの移動中に町並みの説明をしていただいた。移動中、街路並木が道路のトンネルの様に大木となっており良好な景観と申し上げたら、落葉清掃が大変とのことであったが、秋には街路樹のライトアップが実施され多くの市民が集う空間として賑わう事が想像できた。市内の道路網は完備されており、直線道路が多く整備されていることからコンビナート企業の税収が大きいと想像できた。 大学に到着後、S1 号館 4 階のディブリーフィングルームに案内していただき、開会に先立ち周南市議会議長の福田健吾氏より歓迎のご挨拶を頂いた。その後、公立大学法人周南公立大学理事の内村雷太氏より歓迎のご挨拶と大学の現状について説明を頂き、政友クラブを代表して私より視察受け入れの感謝を伝えさせていただいた。 政友クラブからは事前に 7 項目の質問を通告させていただいており、周南市役所企画部公立大学連携課の宮崎正臣氏よりスライドを用いてそれに沿った説明をしていただいた。 徳山大学の公立化の歴史から、公立化検討の背景・議決までの経緯、市が目指す「大学を生かしたまちづくり」については、令和元年から前進の徳山大学の公立化に向けた庁内会議が設置され令和 2 年に企画課に公立大学推進室を設置から令和 3 年には大学を生かしたまちづくりの方向性（案）が市民に示され意見募集が行われ、同年 8 月には市議会に於いて公立化関連議案が議決となったとのことであり、その推進速度の速さに驚きを感じる。 周南公立大学は地域の成長エンジンと位置づけられており、様々な施策が紐付けられており、新たな価値を創造し、地域が持続的発展を推進されることにより地方創生を実現するというコンセプト通り、その役割が果たされている施策展開と感心した。四日市市における大学構想に生かせる取り組みが多くあり、今後の施策展開へとつながる大きなヒントとなる貴重な体験であった。 終了後、キャンパス内を案内していただきスポーツ施設の充実されていることに驚きを感じた。S1 号館の 1 階にはオープンスペースとカフェスペースが設置されており、多くの学生達が集い語り合っていた。 視察終了後に、玄関のキャンパス案内板前にて集合写真を撮り視察を終え、議会事務局のお世話で周南駅へと向かった。昨日視察した図書館を通過し新幹線に乗りし視察行程を終えた。

視 察 研 修 報 告 書 (1)

視察日時	令和 6 年 10 月 14 日(月) 14:30~16:00
視察者氏名	政友クラブ 笹岡秀太郎
視 察 先	山口県周南市 「周南市立徳山駅前図書館」
説 明 者	徳山駅前図書館 ソーシャルデザイン統括本部周南タウンマネジメントリーダー 山中賢治氏
目的	周南市立徳山駅前図書館は四日市市が目指す中心市街地活性化に繋げる新図書館と同じコンセプトで 2018 年に開館された。駅前賑わい交流施設と共に指定管理者による運営がなされておりその成果を確認することとした。
内容	J R 徳山駅に直結しており、指定管理者の C C C (カルチャ・コンビニエンス・クラブ) が一体的に管理を行っており、年中無休となっている。駅前から 800m 離れたところに中央図書館が立地している。図書移管区画の延べ床面積は 2,374 m ² 。
所感・感想	<u>「賑わい創出の図書館導入事例について」</u> 今回の視察は 1 名が急遽欠席隣 8 名での視察することとなった。四日市を 9 時 21 分に出発し、新幹線名古屋駅を 10 時 26 分発、徳山に 13 時 13 分に到着した。 徳山駅を下車、ホームから「周南市立徳山駅前図書館」が見渡すことが出来た。宿泊ホテルへ荷物を預け駅前にて遅い昼食を済ませ、図書館へと向かった。2 階のインフォメーションにて受付を済ませ、撮影者の腕章を交付していただき館内を視察させていただいた。当該施設を管理運営雄するカルチャ・コンビニエンス・クラブの山中賢治氏よりご挨拶を受け運営等の取り組みについてレクチャーしていただき、民間視点での管理運営が市民のニーズを把握することを第一義に推進されていることが感じ取られたところである。 周南市徳山駅前賑わい交流施設は 2018 年に開館され、先にご挨拶を頂いた指定管理者のカルチャ・コンビニエンス・クラブにより年中無休で一体的な運営管理が行われているとの事であった。基幹図書館である中央図書館の資料がウェブ上で予約でき、駅前図書館で受け取りができるサービスは好評とのことで、併せて施策展開されている当日受け取りサービスは有料ではあるものの 500 円で宅配返却サービスが展開されているとの事であった。 二階のキッズライブラリーには多くの子ども達で賑わっており、外周を歩いて各フロアに移動できるデッキが設けられており、このデッキからパブリックビューイングも開催されとの事で所々設置された椅子とテーブルには多くの市民が談笑し賑わっていた。 一階のカフェコーナーの「スターバックス」は多くのお客様が長蛇の列で賑わいをみせており、2 階の販売コーナーにおいては地元の産品が販売もされており、市外からの誘客への配慮がなされている事に民間の視点を感じた。また、3 階の自習コーナーには多くの学生が利用されており、担当者に確認したら館内で一番人気のコーナーなんですよとの事であった。 「まちなか共創センター」3 階に設置されており、周南大学サテライトオフィスも年中無休で対応されており種相談をこの施設にて受けていた。地域の連携窓口としてワンストップでの取り組みには学ぶべきものが多いと認識する。 利用に関しては開設コンセプトに沿っておれば無料で誰もが利用できる。 視察終了後、見学者用腕章等を返却し感謝を伝え施設をあとにした。

視 察 研 修 報 告 書 (2)

視察日時	令和 6 年 10 月 15 日(火) 10:00~12:00
視察者氏名	政友クラブ 笹岡秀太郎
視 察 先	山口県周南市 「周南公立大学」
説 明 者	周南公立大学連携課 宮崎正臣氏・同 林正人氏・同 藤井香氏
目的	1971 年創立で「徳山大学」として創立され、2022 年 4 月に公立化されて「周南公立大学」と改称された。学部は 2024 年 4 月に「経済学部」と「新たに福祉情報学部」が生徒募集を停止されており、新たに「人間健康科学部」「情報科学部」「経済経営学部」が設置された推移を現場で確認し四日市市が推進する大学誘致施策の検証を行うこととする。
内容	徳山大学から周南公立大学への移設経緯を伺い、新たな施設への移行以後の投資額と投資効果など大学運営に係る諸課題をについて学んだ。
所感・感想	「周南公立大学の設置経緯と運営について」 周南市議会事務局調査担当鶴岡さんに宿泊先のホテルから「周南公立大学」までの送迎を担当していただいた。移動中には市の概要と特色の説明をしていただいた。 市中心部の道路には大きく成長した街路樹が重厚な趣となっており、市民が憩う空間となっているとのことで四日市市の中央通りの並木を連想したところである。 中心市街地より 15 分ほどで大学に到着し S1 号館 4 階のディブリーフィングルームに案内していただいた。視察の開会に先立ち周南市議会議長の福田健吾氏より歓迎のご挨拶を頂き、今回のメインテーマである大学設置に向けた議会の動きをご説明いただき、その後公立大学法人周南公立大学理事の内村雷太氏より歓迎のご挨拶と大学の現状について説明を頂いた。我が政友クラブからは川村代表より四日市市が推進する大学誘致の進捗状況と諸課題の取り組みについてご教示賜りたい旨のご挨拶をのべ、ブリーフィングに入る。周南市役所企画部公立大学連携課の宮崎正臣氏よりスライドを用いて政友クラブから事前にお伺いしたい項目に沿って説明を受けた。 公立化検討の背景から、市議会での議決までの経緯と市の推進テーマである「大学を生かしたまちづくり」についてお伺いすると共に、令和 2 年に公立化に向けた庁内会議の設置、企画課に公立大学推進室が設置され、令和 3 年には大学を生かしたまちづくりの方向性（案）が市民に示され意見募集が行われた旨の説明を受けた。 同年 8 月には市議会に於いて公立化関連議案が議決となったとのことであり、その推進速度の速さに驚きを感じる。周南公立大学は地域の成長エンジンと位置づけられており様々な施策が取り入れられて地方創生が新たな価値を創造し、地域が持続的発展することで施策が実現するという視点が力強い推進力となり早期の施策展開が実現されたものと感心した。 四日市における大学構想にも生かせる取り組みが多くあり、今後の施策展開へとつながる大きなヒントとなる視察内容であった。 視察終了後にはキャンパス内を案内していただき看護科の新しい取り組みや充実したスポーツ施設で素晴らしい成果を上げられている報告があった。大学の 1 階にはオープンスペースとカフェスペースが設置されており、多目的に利用できるよう工夫がなされていた。視察を終え、キャンパス案内板前にて集合写真を取り改めて議会事務局のお世話で周南駅へと送っていただき今回の視察行程を終えた。

調査研究、研修報告書

R6年 10月 15日

実施日時	6年 10月 15日（火） 9時 50分～ 12時 00分
参加者氏名	日置記平 他8名
訪問先	周南公立大学
対応者	周南市議会議長 福田健吾 周南市議会事務局庶務調査担当 靄岡舞子 周南市企画部公立大学連携課課長 宮崎正臣 周南公立大学事理事務局長 内藤雷太 周南公立大学経営企画部経営企画課課長 藤井香 周南公立大学人間健康科学部スポーツ健康科学科 江崎和希
目的・内容	四日市市の大学誘致の参考事例として、旧徳山大学を公立化して周南公立大学を設立した経緯と現状を調査研究する。
成果・所感	・旧徳山大学を公立化した経緯について 徳山大学を引き継ぎ、周南公立大学を設立した経緯、歴史の紹介から、学校法人徳山教育財団が設立され、中央学院から周南市が経営を引き継いだ。 令和元年に「徳山大学の公立化に関する要望書」が徳山教育財団から市に提出され、市が公立化を進める検討を始め、令和2年から翌年にかけて有識者による検討会議において、メリット、課題、市と大学への意見を洗い出した。 大きな課題としてはスポーツ特待生の授業料免除による収入減と、18歳人口の激減である。これにより公立化では「大学を生かしたまちづくり」の3つの方向性を定め、①大学を「地域の成長エンジン」とした地方創生。②地域人材循環構造の確立。③若者によるまちの賑わいの創出。とした。 ・公立化にかかる手法、学部改組の経緯について。 大学の改組による国からの交付金増、地方債の発行で開学後の財政運営において市の支出が生じない事を市民に説明した。こうして令和4年春の開学を目指す事として、大学名は「周南公立大学」とた。開学2年後の令和6年には従来の経済経営学部に加えて人間健康科学学部と情報科学学部を増設して、スポーツ健康科学、看護、介護、情報科学の各学科が新設された。

	・学生の現状について（資料） 今後は地元企業での就業体験（80社以上が受け入れ）、地域DX教育研究センターと地域健康交流研究センターの設置、小中学校へのインターンシップ、デジタルディバイド解消事業、大学図書館と市立図書館の連携、畑ワサビの生産環境センシング業務、まちなか共創センター開設、市役所内での市内大学等を今後の展開として計画している。 令和6年度の入学試験での全体の志望倍率は4.9倍である。 市としての取り組みは、リカレント教育促進補助金で、令和7年度に20名程度の受講者を予定している。未来人材奨学金返還支援事業では卒業後に市内に住む事、もしくは農林漁業の起業家になると、本人の負担を1/3に減額する支援を実施予定。 将来の課題として、理工系学部の設置については、地元企業は即戦力となる高校・高専からの採用が多く、県内に山口大学もあり、学生の取り合いになる点、多額の施設設備の投資が必要なことから考えない。大学院の設置を検討課題とする。 以上の視察で、公立大学の設置の理由と位置づけがはっきりしている点と、地方交付税交付団体である為に大学への交付金で運営費が賄える点で、四日市市とは全く異なる状況である事が理解できた。 工学部の設置は財政的に難しいので考えないとの判断は賢明であり、四日市市には一考の余地があると考えます。
--	--

資料別添付

調査研究、研修報告書

R6年 10月 14日

実 施 日 時	6年 10月 14日（月） 14時 30分～ 15時 30分
参 加 者 氏 名	日置記平 他8名
訪 問 先	周南市立徳山駅前図書館
対 応 者	CCC山中憲治ソーシャルデザイン統括本部周南タウンマネジメント推進リーダー
目 的 ・ 内 容	周南市立徳山駅前図書館を視察して、立地の効果と市民の利用状況、波及効果を学ぶ。徳山駅前のにぎわい創出を目的とした賑わい交流施設整備事業により開館した駅前図書館は駅ビル内に位置し、本屋、交番、レストラン、喫茶店を包含しており、新幹線の駅と言う立地から成功している。
成 果 ・ 所 感	周南市中心図書館とは目的と機能が異なる駅前図書館であり、CCC（カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社）が指定管理を担う。 周南市には市町村合併の結果、他に福川図書館、新南陽図書館、鹿野図書館、熊毛図書館があり、当該図書館は徳山駅に隣接する駅前図書館として特別な存在である。 平成25年に市民アンケートを実施した結果、市民が行きたいと思う場所のイメージ？なる問いには、①落ち着いて、居心地が良い。②カフェやレストランが併設。③年中無休で早朝から夜遅くまで開いている。 なる答えが出た。 次に徳山駅ビルに欲しい施設は？に対して、公共施設としては図書館が一位であった。そこに欲しい機能として、 ① カフェ。②書店。 となり、「ブック＆カフェが併設された民間活力導入図書館」は市民ニーズに合った施設と判断された。 平成27年6月に基本設計業務委託が完了し、平成28年8月にCCCを指定管理者に決定した。賑わい交流施設のコンセプトの内容は、 ・ このまちへ来る人へのおもてなしの場、 ・ このまちに住んでいる人たちの居場所、 ・ 人が集い楽しむまちの賑わいと交流の場、の三つである。

市内の他の5つの図書館とは連携しており、今後は周南公立大学図書館とも連携する予定である。

- ・年中無休で開館時間は9:00～22:00であり、スターバックスコーヒーは8:00～22:00、飲食施設は11:00～22:00である。

- ・施設の内容は1階にレストラン、スターバックスコーヒー、蔦屋書店、トイレ、交番。2階に図書館。3階に専門書の図書館と交流室、まちなか供創センターと学習スペースを配置している。

- ・図書館カードは市民だけでなく、日本国内在住の方は登録できる点が特徴的。

- ・iPadを図書館内で1時間以内は無料で貸し出している。

- ・乳幼児向けには、館内でベビーカーの貸し出しと、おむつ替えベッドや調乳専用浄水給湯器を完備した授乳室、こども専用トイレも設置している。

- ・Wifiは無料で利用できる。

- ・本の返却では、市内の各図書館と移動図書館、返却ポストで24時間返却可能。全国一律500円で自宅から返却できる。

- ・隣に125台・24時間営業の駐車場があり最初の1時間を無料としている。

- ・交流室は3室あり、160㎡、100㎡、13㎡それぞれが1時間1,200円、900円、200円の利用料で、無料ではない。

JR西日本から市が底地を7億円余で購入済み。喫茶店とレストランを併設した形態は現在主流であり、自動車での来館者には、四日市市が計画していた様に、1時間の駐車を無料として支援しているのは喜ばれている。交流室は有料である。書店が内在し、文房具等の物販も行われていて便利である。

所感としては、全国で多くの実績のある事業者のCCCを指定管理者にして、市直営ではできない運営手法により、賑わい交流施設としてうまく機能しているので、公営にない魅力を感じた。

また、駅ビルではあるが、底地を買い取っているのは、将来の不要な支出を防ぎ、賢明であると感じた。

資料別添付

（調査研究、研修、要請・陳情活動、会議）報告書

R6年10月17日

実施日時	R6年10月14日（月）14時30分～15時30分
参加者氏名	政友クラブ、伊藤嗣也含め8名
用務先	周南市立徳山駅前図書館
対応者	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC） ソーシャルデザイン統括本部 周南タウンマネジメント推進Leader 山中嘉治氏
目的・内容	・周南市立徳山駅前図書館の設置経緯等について 周南市が2018年2月3日に開館させた、 周南市徳山市駅賑わい交流施設として、 JR徳山駅に隣設して整備した。 交流施設と共に、CCCが運営する指定管理者 制度が導入されている。
成果・所感	指定管理者のCCCが図書管区画の一部を使用して 「蔦屋書店BU」スターバックスを営業しており、 1階の蔦屋書店BUスターバックス、2階の子供向け のフロアであるキッズライブラリー、3階の学習ス ペース、ビジネススペース等全フロアが特に若者で 溢れており、賑わい創出になっている。

（調査研究、研修、要請・陳情活動、会議）報告書

R6年10月17日

実施日時	R6年10月15日(火) 10時00分～12時00分
参加者氏名	政友クラブ、伊藤嗣也 等 8名
用務先	周南公立大学
対応者	別紙
目的・内容	<u>「周南公立大学視察 ※徳山大学(私立)の</u> <u>公立化について」</u> <u>人口減少対策、地方創生が期待できる、市民の地域</u> <u>活動や生涯学習の充実に寄与することを目的</u> <u>として、2021年8月周南市議会において</u> <u>徳山大学の公立化が議決された。</u>
成果・所感	<u>2024年4月に人間健康科学部が開設され、</u> <u>スポーツ健康学科、看護学科、福祉学科が</u> <u>学生数の増える事への期待ができる。</u> <u>別紙の事く、大学の地域貢献度調査の成績</u> <u>2000人未満でトップになった。(2回連続)</u> <u>公立化により今後に期待できると思います。</u>

調査研究、研修報告書

オキス

R6年 10月 14日

実施日時	6年 10月 14日（月） 14時 30分～ 15時 30分
参加者氏名	荻須智之、川村幸康、笹岡秀太郎、日置記平、伊藤嗣也、森川慎、笹井絹予、上麻理
訪問先	周南市立徳山駅前図書館
対応者	CCC山中憲治ソーシャルデザイン統括本部周南タウンマネジメント推進リーダー
目的・内容	徳山駅前のにぎわい創出を目的とした賑わい交流施設整備事業により開館した周南市立徳山駅前図書館を視察して、立地の効果と市民の利用状況、波及効果を学ぶ。
成果・所感	CCC（カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社）が指定管理を担う周南市立図書館であり、中央図書館とは目的と機能が異なる。周南市には市町村合併の結果、他に福川図書館、新南陽図書館、鹿野図書館、熊毛図書館があり、当該図書館は徳山駅に隣接する駅前図書館として特別な存在である。 平成25年に徳山駅跡地活用方針検討会議を組織し、これが徳山駅周辺デザイン会議に発展し、翌年パブリックコメントを実施し、新たな徳山駅ビル整備基本構想をCCCと共同声明として発表。 これを受けて市民アンケートを実施した結果、市民が行きたいと思う場所のイメージ？なる問いには、①落ち着いて、居心地が良い。②カフェやレストランが併設。③年中無休で早朝から夜遅くまで開いている。 なる答えが出た。 次に徳山駅ビルに欲しい施設は？に対して、 ①カフェ。②書店。 ※公共施設としては図書館が一位であった。これにより、「ブック＆カフェ」が併設された民間活力導入図書館は市民ニーズに合った施設と判断された。 平成26年に基本・実施設計業務委託契約を行い、整備イメージを発表し、徳山駅周辺まちづくりシンポジウムを開催。 平成27年6月に基本設計業務委託が完了し、平成28年8月にCCCを指定管理者に決定した。

賑わい交流施設のコンセプトの内容は、

- ・このまちへ来る人へのおもてなしの場、
- ・このまちに住んでいる人たちの居場所、
- ・人が集い楽しむまちの賑わいと交流の場、の三つである。

市内の他の5つの図書館とは連携している。今後は周南公立大学図書館とも連携予定。

・年中無休で開館時間は9:00～22:00であり、スターバックスコーヒーは8:00～22:00、飲食施設は11:00～22:00である。

・施設の内容は1階にレストラン、スターバックスコーヒー、蔦屋書店、トイレ、交番。2階に図書館。3階に専門書の図書館と交流室、まちなか供創センターと学習スペースを配置している。

・図書館カードは市民だけでなく、日本国内在住の方は登録できる点が特徴的。

・iPadを図書館内で1時間以内は無料で貸し出している。

・乳幼児向けには、館内でベビーカーの貸し出しと、おむつ替えベッドや調乳専用浄水給湯器を完備した授乳室、こども専用トイレも設置している。

・Wifiは無料で利用できる。

・本の返却では、市内の各図書館と移動図書館、返却ポストで24時間返却可能。全国一律500円で自宅から返却できる。

・隣に125台・24時間営業の駐車場があり最初の1時間を無料としている。

・交流室は3室あり、160㎡、100㎡、13㎡それぞれが1時間1,200円、900円、200円の利用料で、無料ではない。

駅前を中心市街地である新幹線駅に隣接した駅前図書館である。底地はJR西日本から市が7億円余で買い取った。喫茶店とレストランを併設した形態は現在主流であり、自動車での来館者には1時間の駐車を無料として支援している。この施設は駅前整備事業の賑わい交流施設整備事業の一環で建設された。3つのコンセプトを明確にしており、交流室は有料である。CCCの指定管理には多く見られるが、本を販売する書店が内在し、文房具等の物販も行われている。図書館の配架状況は札幌市の蔦屋書店での「本の森」と呼ばれるトンネル状の書架が特徴的である。

視察時は祝日の午後であり、多くの大学生が学習していた。併設の喫茶店とレストランで飲食も出来るので、長く滞在する事が可能である。

四日市市が計画中の新図書館は駅隣接ではないが似た立地であり、大いに参考になるが、この図書館には閉架書庫は無く、地域固有の歴史的資料が収蔵されておらず、配架書籍数も限られ、あくまでも中央図書館の補完的な施設である点が四日市市の計画とは異なる。似た様な図書館は宮崎市の駅前図書館がある。総じて、中心市街地繁華街に主たる図書館を整備するのは難しく、ベビーカー世代や高齢者が来館するのが主に自動車である点で、駅前、駅近が必ずしも利便性に寄与するとは言えない事が理解できた。交流室が有料である点も参考になった。

CCCを指定管理者にしてプロポーザルのアイデアが多く、市直営では企画できない設備や機能、ソフト面での新たな運営手法にあふれ、多くのイベントが企画されている事が、賑わい交流施設としてうまく機能している事から、民間の知見、ノウハウを大いに活用すべきと感じた。

底地を借地でなく、買い取った点も人口減少の将来に家賃や定期借地権料が発生しないので、賢明である。

資料別添付

調査研究、研修報告書

オギス

R6年 10月 15日

実施日時	6年 10月 15日（火） 9時 50分～ 12時 00分
参加者氏名	荻須智之、川村幸康、笹岡秀太郎、日置記平、伊藤嗣也、森川慎、笹井絹予、上麻理
訪問先	周南公立大学
対応者	周南市議会議長 福田健吾 周南市議会事務局庶務調査担当 靄岡舞子 周南市企画部公立大学連携課課長 宮崎正臣 周南公立大学事理事務局長 内藤雷太 周南公立大学経営企画部経営企画課課長 藤井香 周南公立大学人間健康科学部スポーツ健康科学科 江崎和希
目的・内容	旧徳山大学の公立化について（周南公立大学設立）現地を視察し、公立化の経緯と現状を調査し、四日市市の大学誘致の参考とする。
成果・所感	質問事項 ・旧徳山大学を公立化した経緯について 徳山大学の歴史の紹介から、1974年に出光興産出光佐三店主が2億6,200万円を寄付し、学校法人徳山教育財団が設立され、中央学院から経営を引き継いだ。令和元年に当該財団から大学の将来像を描いた「徳山大学の公立化に関する要望書」が市に提出され、同年8月に徳山大学公立化庁内検討会議、翌年に企画課公立大学推進室が設置された。これは非常に大きな改革であり、文科省からは新しい学科のニーズはあるのか？と問われ、地元企業の卒業生の採用の意思の調査を行いこのデータを文科省に示した。令和3年には「大学を生かしたまちづくりの方向性（案）」の市民説明、意見募集を行い、同年8月に市議会で公立化関連議案が可決。並行して令和2年から翌年にかけて有識者による検討会議を5回開催し、メリット、課題、市と大学への意見を洗い出しまとめた。大きな課題としては18歳人口の減少とスポーツ特待生の授業料免除による収入減と、外国人留学生に頼っている点である。有識者検討会議を受けての市の認識は、「徳山大学は地域の財産、地域に無くてはならない高等教育機関」であり、県東部唯一の4年制大学、1000人を超える若者による賑わい創出、年18億円の市内経済波及効果等である。これにより公立化では「大学を生かしたまちづくり」の3つの方向性を定め、①大学を「地域の成長エンジン」とした地方創生。②地域人材循環構造

の確立。③若者によるまちの賑わいの創出。とした。

・公立化にかかる手法、学部改組の経緯について。

続いて市民への説明と意見募集（390件）を行い、特に開学後の財政運営において市の支出が生じない事を、改組による国からの交付金増、地方債の発行で説明した。こうして公立化の判断を議会で表明し、令和4年春の開学を目指す事となった。大学名は「周南公立大学」とし、2年間の開学までのスケジュールを決定した。開学2年後の令和6年には従来の経済経営学部に加えて人間健康科学学部と情報科学学部を増設して、スポーツ健康科学、看護、介護、情報科学の各学科が新設された。

・学生の現状について（資料）

公立化後の変化は、2023年の日経新聞の大学の地域貢献度調査において全国14位、公立大学ランキングで3位、総学生2000人未満の大学ランキングで1位となった。今後は地元企業での就業体験（80社以上が受け入れ）、地域DX教育研究センターと地域健康交流研究センターの設置、小中学校へのインターンシップ、デジタルディバイド解消事業、大学図書館と市立図書館の連携、畑ワサビの生産環境センシング業務、まちなか共創センター開設、市役所内での庁内大学等を今後の展開として計画している。令和6年度の入学試験での全体の志望倍率は4.9倍である。

市としての取り組みは、リカレント教育促進補助金で、令和7年度に20名程度の受講者を予定している。未来人材奨学金返還支援事業では卒業後に市内に住む事、もしくは農林漁業の起業家になると、本人の負担を1/3に減額する支援を実施予定。

将来の課題として、理工系学部の設置については、地元企業は即戦力となる高校・高専からの採用が多く、県内に山口大学もあり、学生の取り合いになる点、多額の施設設備の投資が必要なことから考えない。大学院の設置を検討課題とする。

質疑応答

問：重化学工業が盛んな土地柄だが、工学部化学系の学科は？

答：増設の声は地元にもあるが、お金がかかる。隣に徳山高専、県内に山口大学工学部があり、重化学工業の企業は大きな企業で高度な人材を求める事と本社採用では事業所が当市になるとは限らないので難しい。

問：学生は民間企業か公務員か、どちらの志望者が多いか？

答：以前は公務員では警察官、自衛隊員が多かったが、今の学生は県庁を目指す子が多い。令和7年度に公立化した最初の卒業生が出るので、来年度が就活の年となる。

問：二次試験の試験日が一般の旧国立大学と異なるのか？

答：中期に行っており、この効果かも知れない。

問：市からの出捐金、繰り出し金は有るか？

答：大学分の国からの交付金を全額大学へ出しているの、市の負担は無い。

問：要らなくなった教授は解雇したのか？

答：自分で辞めた人はいるが、解雇はしていない。

問：市外からの学生が増えたが、住居、交通手段は？

答：民間アパートにまだ空きがあり、学生寮の建設を検討している。移動手段は主に公共バスで利用者は増えたので増便している。自転車での通学も多い。

問：飲食店への学生増の影響は？

答：アルバイトを求める声は多い。

・施設費について、現状の課題について

問：公立化時にキャンパス等の財産を全て受けてもらったのか？

答：自治体に建物と土地を寄付して頂き、金融資産46億円の内30億円を市が受け取り、残りの16億円で現在の赤字を埋めており、来年度まで続く。基金は市側に5億円、大学側に16億円の残りの8億5千～6千万円ある上に、企業からの寄付が毎年1億円あり、毎年度1億円程度の黒字で運営できる予定。

問：特待生と留学生は？

答：特待生は無くなり、留学生も減ったので、財政的に貢献している。

問：リカレント教育について実績と予算規模は？

答：全国で前例のない中で初めての取り組みで、昨年度は2～3名しか利用者が無かったが、今年度は準備期間を取れたので10名以上居る。予算規模は30～40万円程度だ。

問：議会からは？

答：評価されており、しっかり取り組むように言われている。

以上の視察で、公立大学の設置の理由と地域に貢献する高等教育機関という位置づけがはっきりしている点と、地方交付税交付団体である為

	に大学への交付金で運営費が賄える点で、四日市市とは全く異なる状況である事がはっきりした。
--	--

	四日市市と同じ重化学工業が発達している土地柄だが、工学部の設置は財政的に難しいので考えないとの判断は賢明だと感じた。
--	--

資料別添付

視察研修報告書（１）

視 察 日 時	令和6年10月14日（月）14時：30～16時：00
視 察 者 氏 名	政友クラブ 笹井絹予
視 察 先	山口県周南市 「周南市立徳山駅前図書館」
説 明 者	徳山駅前図書館 ソーシャルデザイン統括本部周南タウンマネジメントリーダー 山中賢治氏
目 的	周南市立徳山駅前図書館は四日市市が目指す中心市街地活性化に繋げる新図書館と同じコンセプトで2018年に開館された。駅前賑わい交流施設と共に指定管理者による運営がなされておりその成果を確認することとした。
内 容	J R 徳山駅に直結しており、指定管理者のCCC（カルチュア・コンビニエンス・クラブ）が一体的に管理を行っており、年中無休となっている。駅前から800m離れたところに中央図書館が立地している。図書移管区画の延べ床面積は2,374㎡。
所 感 ・ 感 想	「賑わい創出の図書館導入事例について」 山口県周南市立徳山駅前図書館は2018年2月に誕生した。 南に瀬戸内海を望み、海岸線に沿って大規模工業が立地している地帯である。徳山駅に到着すると、目の前に海岸地帯があり、200mぐらいの距離感であり、全国でも珍しいと言われている。 徳山駅前図書館は、学びの場・賑わいと交流の場として、駅前の利便性を活かした現代的で親しみやすい空間を提供している。 市民アンケートにも居心地の良さやカフェや書店が併設された施設がほしいなど、公共施設としては図書館が1位であり、周南市立駅前図書館は民間活力を利用した市民ニーズにあった施設である。 駅前図書館の中に入ると、各階段沿いに子どもたちや大人も楽しめるような童話風のブックイラストが壁一面に描かれ、思わず見とれてしまう空間であった。また、図書館の外観もガラス張りとなっており、夜は駅全体がライトアップされ、アート感をもたらしていた。



視察研修報告書（２）

視 察 日 時	令和6年10月15日（火） 10：00分～12時：00
視 察 者 氏 名	政友クラブ 笹井絹予
視 察 先	山口県周南市「周南市公立大学」
説 明 者	周南市公立大学連携課 宮崎正臣氏・同 林正人氏・ 藤井香氏
目 的	1971年創立で「徳山大学」として創立され、2022年4月に公立化されて「周南市公立大学」と改称された。学部は2024年4月に「経済学部」と「新たに福祉情報学部」が生徒募集を停止されており、新たに「人間健康科学部」「情報科学部」「経済経営学部」が設置された推移を現場で確認し四日市市が推進する大学誘致施策の検証を行うこととする。
内 容	徳山大学から周南市公立大学への移設経緯を伺い、新たな施設への移行以後の投資額と投資効果など大学運営にかかる諸課題を学んだ。
所 感 ・ 感 想	「周南公立大学の設置経緯と運営について」 周南市は人口約13万であり、主な産業は重化学工業である。製造品出荷額も山口県では1位である。全国1,724自治体の中では44位であり、国際拠点港湾である徳山下松港を中心に重化学工業、石油化学コンビナートなど、人口規模から推測すると、工業がまちの発展を形成しているのがうかがえる。 「周南公立大学」は以前、徳山大学であったが、市が目指す「大学を生かしたまちづくり」というコンセプトのもと、公立大学として2022年4月に開学した。周南公立大学が公立化後は志願倍率が1.2倍から約8倍になり、受験が増加している。令和5年度の入試は9.7倍と増加であった。現在の学部学科は経済経営学部を中心に健康科学や情報科学である。令和6年度には看護学科や情報科学科が新学部として開設された。 校内では看護施設が設置され、研修用としてマネキンがベット内に配置され、デジタル技術を使用した、様々な取組みが行われていると感じた。 また、地域のDX化推進拠点施設として令和4年9月に開設している。公立化後の変化として、地元企業での就業体験をキャリア形成活動として必修科目となっており、約80社以上の地元企業が受け入れている。 少子化や人口減少に対応するため、地方創生や持続可能なまちづくりの推進に向け、地域人材の育成に取り組んでおり、今後、公立大学が地域の活性化や行政課題の解決をどう解決していくことができるのか課題である。

（調査研究、研修、要請・陳情活動、会議）報告書

R6年 10月16日

実 施 日 時	令和6年10月14日 14:30 ~ 16:00
参 加 者 氏 名	政友クラブ 森川 慎
視 察 先	山口県周南市 周南市徳山駅前図書館
説 明 者	徳山駅前図書館 ccc総括本部周南タウンマネージメントリーダー
目 的 ・ 内 容	目的 周南市徳山駅前図書館は四日市が目指す新図書館と同じコンセプトで2018年に開館された。駅前賑わい交流施設と共に指定管理者による運営がなされておりその成果を確認する 内容 JR徳山駅に直結しており指定管理者のCCCが一体的に管理を行っており年中無休となっている。駅から800m離れたところに中央図書館が立地している。図書移管区画の延床面積は2,374m
成 果 ・ 所 感	周南市徳山駅前図書館は、徳山駅直結で整備されている図書館である。 3階建ての小さめの図書館ではあるが、自習室などは利用する学生であふれており、駅直結の利便性の反面、利用者の需要に対するキャパシティは十全ではなかったのかもしれない。また、ツタヤ、スターバックスも併設されており、こちらも人があふれていた。駅直結図書館の利便性と文化的拠点としての役割を果たしていることは実感された。 四日市市での図書館整備の参考にできるとすれば、その利便性と小規模であっても旺盛なその市民需要については参考にできるものと考えられる。

（調査研究、研修、要請・陳情活動、会議）報告書

R6年 10月16日

実施日時	令和6年10月15日 10:00～12:00
参加者氏名	政友クラブ 森川 慎
用務先	山口県周南市 周南公立大学
対応者	周南公立大学連携課 宮崎正臣氏・同 林正人氏・同 藤井香氏
目的・内容	目的 1971年創立で「徳山大学」として創立され、2022年4月に公立化され「周南公立大学」へ改称された。学部は2024年4月に「経済学部」「福祉情報学部」から、新たに「人間健康学部」「情報科学部」「経済経営学部」が設置された推移を現場で確認し四日市市が推進する大学誘致施策の検証を行う 内容 徳山大学から周南公立大学への移動経緯を伺い、新たな施設への移行以後の礎石額と投資効果など、大学運慶に関わる諸課題について学んだ
成果・所感	周南大学は私立の旧徳山大学を公立化した大学である。旧徳山大学は学生の約6割が、留学生やスポーツ特待生が占めており、ほとんどが奨学金を受けて学校財政は厳しい状況であった。これは現在の本市におきる四日市大学と類似した状況であった。この旧徳山大学を基礎として、周南市は公立化への舵を取るようになっていく。 当時旧徳山大学は資産が約46億円あり、その資産を市が譲り受け、その資産のうち30億円を活用して校舎や設備の整備費に充てている。公立化により志願者の増など、そして地域貢献大学を目指すという方針のもと、その成果も徐々に出てきている状況である。しかしながら、大学財政については2022年の開学後、赤字が続いており、これが黒字化するのは開学5年目の2026年の見込みであり、その経営は予断を許さないというのが実情である。また公立化後学部を増やし改編をしてきているが、工業都市の周南市にとって必要と思われる工学系などの理系学部の創設については、その必要性を市として認識はしているものの、予算的な課題や、文科省による認可の問題等で、実現についての見通しは持っていないとの見解であった。 以上のような状況を鑑みると、四日市市において理工系大学の新設という課題について、その理想は一定の理解ができるものの、実現性については極めて慎重にかつ懐疑的に見ざるを得ないというのが、今回の視察を経ての感想である。なにより旧徳山大学と同様の状況になっている四日市大学の活用や課題こそを解決することが、喫緊の行政課題である。

（調査研究、研修、要請・陳情活動、会議）報告書

R6年 10月16日

実施日時	令和6年10月14日 14:30 ~ 16:00
参加者氏名	政友クラブ 上麻理
視察先	山口県周南市 周南市徳山駅前図書館
説明者	徳山駅前図書館 ccc総括本部周南タウンマネージメントリーダー
目的・内容	目的 周南市徳山駅前図書館は四日市が目指す新図書館と同じコンセプトで2018年に開館された。駅前賑わい交流施設と共に指定管理者による運営がなされておりその成果を確認する 内容 JR徳山駅に直結しており指定管理者のCCCが一体的に管理を行っており年中無休となっている。駅から800m離れたところに中央図書館が立地している。図書移管区画の延床面積は2,374m
成果・所感	駅に直結しており一体化されている雰囲気があるので親しみやす印象をうけました CCCは蔦屋グループですので、昨年北海道で視察した蔦屋の雰囲気と同じく若い方や女性にも図書館という感覚からかけ離れた空間でした 決して、大きな図書館ではないものの 1階は蔦屋の販売・スタバがあり2・3階が図書館 素晴らしいと感じたのは空間の作り方、デッキや屋外スペースが多く窓が多く開放感のあるつくりとなっており 3階はほぼ、学習スペースのようになっており多くの学生が（若者）利用していた そういったことから、駅前立地というところをうまく活用し 若者の居場所としての図書館として それに特化した方向性が成功していると感じました 図書館のあり方は様々で、当市に必要な図書館はいったいどの様なものであるべきかを改めて考える良い視察となりました

（調査研究、研修、要請・陳情活動、会議）報告書

R6年 10月16日

実施日時	令和6年10月15日 10:00～12:00
参加者氏名	政友クラブ 上 麻理
用務先	山口県周南市 周南公立大学
対応者	周南公立大学連携課 宮崎正臣氏・同 林正人氏・同 藤井香氏
目的・内容	目的 1971年創立で「徳山大学」として創立され、2022年4月に公立化され「周南公立大学」へ改称された。学部は2024年4月に「経済学部」「福祉情報学部」から、新たに「人間健康学部」「情報科学部」「経済経営学部」が設置された推移を現場で確認し四日市市が推進する大学誘致施策の検証を行う 内容 徳山大学から周南公立大学への移動経緯を伺い、新たな施設への移行以後の砥石額と投資効果など、大学運営に関わる諸課題について学んだ
成果・所感	駅から離れた、傾斜のある住宅地の中にあり 周りには商業施設などではなく キャンパスは小規模な大学であったが 新設した棟もあり、広々と明るく開放的な印象を受けました 私設であった時期に比べて公説に変更した後は募集に対して多くの反応がある また、数字合わせであった留学生の数を大きく減らし 地元を含めた日本国籍の学生が占めているという事が大変興味深く また、学部の編成などの手腕について、もう少し学びたいと感じました 確かに周南市を歩いているとお若い方をみかけるとは感じましたが では、町が活性化されているか？というところは疑問に感じました ただ、駅前の図書館と併せて、周南市が若い方に対して今後どのように していきたいか、という姿勢が理解でき 四日市でも今後の大学設置などへの参考になったと感じました